

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.1 集団化が完了した企業数													
主管課		企業立地推進課													
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	<p>市内事業者の住工混在の解消に向けた工場集団化事業について、市の事業計画案を地権者へ提示し、集団化用地の取得範囲に係る交渉を進めており、事業は遅延している。</p> <p>なお、本事業は、事業全体の進捗状況をKPIとする間接指標を設定したのではなく、向こう5年間において参画企業6社すべてを集団化させることを最終目標とし、集団化完了企業数を直接指標としている。事業の性質から膨大な時間を要するため、評価開始から1～2年では目標の達成は困難であるため、現時点における中間評価の達成率については想定どおりであると思われる。</p>													
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	<p>測量結果を基に取得範囲を確定させるとともに、売買条件に係る協議を進めていく。平成30年度に事業用地の取得、造成工事の着手、また、平成31年度に造成工事の完了、分譲開始を予定している。</p>													
有識者	③評価	事前	<table border="1"> <tr><td>有効であった</td><td>2</td></tr> <tr><td>どちらとも言えない</td><td>1</td></tr> <tr><td>有効とは言えなかった</td><td>1</td></tr> <tr><td>評価なし</td><td>4</td></tr> <tr><td>提出なし</td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>10</td></tr> </table>	有効であった	2	どちらとも言えない	1	有効とは言えなかった	1	評価なし	4	提出なし	2	合計	10
		有効であった	2												
	どちらとも言えない	1													
	有効とは言えなかった	1													
評価なし	4														
提出なし	2														
合計	10														
会議後	<table border="1"> <tr><td>有効であった</td><td>2</td></tr> <tr><td>どちらとも言えない</td><td>2</td></tr> <tr><td>有効とは言えなかった</td><td>1</td></tr> <tr><td>評価なし</td><td>3</td></tr> <tr><td>提出なし</td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>10</td></tr> </table>	有効であった	2	どちらとも言えない	2	有効とは言えなかった	1	評価なし	3	提出なし	2	合計	10		
有効であった	2														
どちらとも言えない	2														
有効とは言えなかった	1														
評価なし	3														
提出なし	2														
合計	10														
④評価に対する理由及び付帯意見		<p>「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 先々の計画であり地権者との交渉は進んでいるように思える。 表面に出ない活動(工場集団化事業による情報交換会)や、そこでの意見交換による市内事業者がまとまって要望や意見を直接行政に伝える場が定期的開催されているので、現時点では「有効とは言えない」とは言えない。 <p>「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 本KPIは、設定指標の性格上、中間評価時点では把握が困難であるため。住工混在が解消され、目標達成が図られるよう、事業を計画的かつ着実に推進していくことを期待したい。 事業者側に立ったメリットを訴求するなど、丁寧かつ根気強く説明していく必要があるのではないかと。 <p>「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内企業有志による勉強会を開催しているが、市役所も交え、正式な組織として勉強会をスタートしてもいいのではないかと。また、売主側との早期接触、期限を定めた条件交渉を実施しなければ、平成31年度の事業開始までに間に合わないのではないかと。あわせて現在の予定地で対応できない場合、代替候補地も検討すべき。 													
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	<p>事業スケジュールについては、平成31年度に分譲開始を目標としていましたが、事業計画案における作業工程を精査する中でスケジュールの見直しを行い、現在は平成32年度以降に分譲を開始する予定としています。</p> <p>地権者との用地交渉については、市、地権者、移転事業者の三者が合意できる売買条件を慎重に見極めつつ、早期の事業実現を目指していきます。</p> <p>移転事業者との調整については、現在も我孫子市商工会の部会である住工混在解消協議会の会員企業を中心とした市内事業者と定期的に進捗状況の報告や意見交換の場を設けており、今後も継続して緊密な連携を図っていきたくと考えています。また、現在の予定地で事業実現を目指すことが前提となりますが、対応できない場合の代替案として、他の候補地での事業の実現可能性についても検討を進めていくこととしています。</p>													

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.3 我孫子市ふるさと製品の品数													
主管課		商業観光課													
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	各イベント等で「我孫子市ふるさと製品」の販売及びPRを行い、シティプロモーションに努めた。また、商業者へのふるさと製品新規登録の依頼や、新たな商品開発のための助言などを行ってきたが、平成27年度は新規応募がなかった。													
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	ふるさと製品を活用した市のPRに努め、新たなふるさと製品推奨品の登録をしてもらうことで、さらにふるさと製品を充実させる。 また、市内商業者と共同して新しい商品の研究と開発を進めており、既に「手賀沼のうなぎちゃん」関係の7つの商品を開発した。今後、それらの商品もふるさと製品を登録してもらうよう働きかけを行っていきたいと考えている。													
有識者	③評価	事前	<table border="1"> <tr><td>有効であった</td><td>1</td></tr> <tr><td>どちらとも言えない</td><td>4</td></tr> <tr><td>有効とは言えなかった</td><td>0</td></tr> <tr><td>評価なし</td><td>3</td></tr> <tr><td>提出なし</td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>10</td></tr> </table>	有効であった	1	どちらとも言えない	4	有効とは言えなかった	0	評価なし	3	提出なし	2	合計	10
		有効であった	1												
	どちらとも言えない	4													
	有効とは言えなかった	0													
評価なし	3														
提出なし	2														
合計	10														
会議後	<table border="1"> <tr><td>有効であった</td><td>1</td></tr> <tr><td>どちらとも言えない</td><td>3</td></tr> <tr><td>有効とは言えなかった</td><td>1</td></tr> <tr><td>評価なし</td><td>3</td></tr> <tr><td>提出なし</td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>10</td></tr> </table>	有効であった	1	どちらとも言えない	3	有効とは言えなかった	1	評価なし	3	提出なし	2	合計	10		
有効であった	1														
どちらとも言えない	3														
有効とは言えなかった	1														
評価なし	3														
提出なし	2														
合計	10														
④評価に対する理由及び付帯意見		<p>「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成率は0%であるが、「手賀沼のうなぎちゃん」関連の新品を市内商業者と研究開発を進めている。こうした取り組みにより、ふるさと製品の品数の増加が期待されるところであり、目標達成に向けて、今後も積極的な働きかけを期待したい。 <p>「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間評価1年目では妥当ではないかと考える。 ・ふるさと製品を増やすことに関する市側のメリット、また事業者側のメリットを再度整理してみてもどうか。それを踏まえた上で、登録メリットを事業者に対し説明し(定量的に)理解を求めているどうか。 <p>「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直売所とマスタ湖北店などで販売されているならば、販売実績のデータを販売店にアプローチすべし。 													
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	<p>今後も継続して、ふるさと製品登録数を増やすことができるよう、我孫子市商工会と連携して、商業者への積極的な働きかけや商品開発への助言などを行うとともに、ふるさと製品の普及やPRにさらに努めていく。また、ふるさと製品の登録によるメリットと考えられる販路の拡大による販売実績の増加や、『ふるさと納税』での返礼品となっていることによる宣伝効果など、アピールできる要素について「我孫子市ふるさと製品連絡協議会」で再確認をし、登録促進に役立てられるようにしていく。</p> <p>※「我孫子市ふるさと製品連絡協議会」は、ふるさと製品の推奨を受けた者が組織・運営しており、我孫子市商工会が事務局として参加している。協議会の目的として、ふるさと製品の販路拡大や製品の定着、育成などを掲げている。</p>													

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.6 起業・創業の支援						
主管課		企業立地推進課						
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	ワンストップ相談窓口において、市内の関連機関と連携しながら創業希望者の様々な相談に対応するとともに、シンポジウム、創業塾、ビジネス交流会を開催した。						
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	これまでの支援施策を継続するとともに、創業時におけるテナント賃料を補助する「我孫子市創業支援補助金制度」の運用を開始し、より多くの創業者の輩出に向けて取り組んでいく。						
有識者	③評価	事前	有効であった	2	会議後	有効であった	3	評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの
			どちらとも言えない	1			どちらとも言えない	
		有効とは言えなかった	1		有効とは言えなかった	1		
		評価なし	4		評価なし	3		
		提出なし	2		提出なし	2		
	合計		10		合計	10		
	④評価に対する理由及び付帯意見	<p>「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KPIとする「起業・創業の累計件数」は、目標年次において達成、未達成が判明する。実施状況記載の手法等により、単年度実績として4件の起業・創業が実現しているとするならば、一定の効果があったと評価できるものと思われる。 ・達成率は低いものの、一定の成果はみられる。引き続き、創業機運の醸成、創業時の相談対応・手続き支援、事業計画作成支援、資金調達支援(金融機関とのコーディネート、各種補助金情報の提供等)、スタートアップ時の支援など、関係機関と連携した段階的な支援を検討してはどうか。 <p>「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その時々々の景気感や失業率に左右される事も念頭におくとどちらとも言い難い。 <p>「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賃料補助の創業支援補助金制度だけでなく、融資制度創設・ベンチャー向けインキュベーター施設整備、HPを通じた創業予定者への我孫子の魅力発信(地元企業によるサポート策等)が必要ではないか。 						
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	<p>資金調達の支援については、市が市内金融機関と連携して実施している中小企業資金融資制度において、平成26年度から創業者向けのメニューを設けていますので、今後も継続して支援を行っていきます。</p> <p>インキュベーション施設については、廉価で事業を開始できる施設としてベンチャー企業等の育成に寄与すると考えられますが、初期投資や維持管理における財政負担や事業の採算性の課題を踏まえ、他市の事例等を参考としながら研究・検討していきます。</p> <p>HPを通じた創業予定者への我孫子の魅力発信については、現在、市HPや特設サイトにおいて、事業活動に適した市内の物件情報や創業者向けの支援施策の情報を発信していますので、今後も継続していきます。</p>						

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.7 企業立地の支援制度数																											
主管課		企業立地推進課																											
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	26年度から「あびこ創業・事業物件ナビ」の運用を開始し、市内の事業活動に適した物件情報を発信している。また、企業立地に係る奨励金制度の創設に向けて調査・検討を進めている。																											
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	企業立地に係る奨励金制度については、工場集団化事業における移転企業への適用も見据え、平成30年度からの運用開始を目標として制度内容の検討を進めていく。																											
有識者	③評価	事前	<table border="1"> <tr><td>有効であった</td><td>1</td></tr> <tr><td>どちらとも言えない</td><td>2</td></tr> <tr><td>有効とは言えなかった</td><td>1</td></tr> <tr><td>評価なし</td><td>4</td></tr> <tr><td>提出なし</td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>10</td></tr> </table>	有効であった	1	どちらとも言えない	2	有効とは言えなかった	1	評価なし	4	提出なし	2	合計	10	<table border="1"> <tr><td>有効であった</td><td>1</td></tr> <tr><td>どちらとも言えない</td><td>3</td></tr> <tr><td>有効とは言えなかった</td><td>1</td></tr> <tr><td>評価なし</td><td>3</td></tr> <tr><td>提出なし</td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>10</td></tr> </table>	有効であった	1	どちらとも言えない	3	有効とは言えなかった	1	評価なし	3	提出なし	2	合計	10	評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの
		有効であった	1																										
		どちらとも言えない	2																										
		有効とは言えなかった	1																										
		評価なし	4																										
		提出なし	2																										
合計	10																												
有効であった	1																												
どちらとも言えない	3																												
有効とは言えなかった	1																												
評価なし	3																												
提出なし	2																												
合計	10																												
④評価に対する理由及び付帯意見	「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見 ・工場集団化事業において移転を希望する企業数は少ないが、将来を見据えて必要な事。																												
	「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見 ・支援制度については検討中であり、現段階での評価は困難である。新たな企業立地の支援や目標値の実現に向け、効果的な支援、奨励制度の創出を期待したい。 ・事業の今後についての内容と、「地元企業への持続的な支援と雇用の安定化」の全ての事業が上手くからめられるかもポイントとなるのではないかと考える。																												
	「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見 ・企業立地に係る物件情報の発信は、物件ごとにターゲット(業種・業態等)を絞って、我孫子市に立地した場合のビジネスモデルがイメージ出来る情報(周辺の仕入先情報、販売先顧客(住民・企業)情報、将来的な周辺環境(道路整備予定等))を提供してはどうか。																												
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	企業立地に係る奨励金制度の創設については、他市事例等を参考としながら、本市の状況に適合した制度内容や創設時期について検討を進めています。 また、工場集団化事業以外の新たな事業用地の創出については、民間活力を活用した手法等の情報収集を積極的に行い、関係課とともに研究・検討を進めていきます。																											

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.8 手賀沼沿い農地活用計画に沿った農地活用面積						
主管課		農政課						
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	手賀沼沿い農地活用計画に基づき、農地活用に取り組んだ農業者等に対して支援を行った。また、排水対策工事を実施することで、排水不良農地の改善を図った。しかし、高齢化等の問題により、農地を保全できる農家が減少したことから、活用面積も減少した。						
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	引き続き本市の農業の中心的な担い手となる認定農業者の確保を進めるため、認定農業者施設整備事業費補助事業による支援を行っていく。						
有識者	③評価	事前	有効であった	0	会議後	有効であった	0	評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの
		どちらとも言えない	3	どちらとも言えない		3		
		有効とは言えなかった	1	有効とは言えなかった		2		
		評価なし	4	評価なし		3		
		提出なし	2	提出なし		2		
合計	10	合計	10					
有識者	④評価に対する理由及び付帯意見	「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見						
		「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見 ・達成率が△11%であるが、高齢化等により農地活用面積が減少したことによるもの。今後とも、農業の生産性の維持・向上や、目標値実現に向けた支援を期待したい。 ・既に起こった未来として今後も農業従事者の高齢化による農地の遊休化は進むと考えられる。将来的に誰が、どのように農地を活用するのかを整理し、それを踏まえた支援を検討してはどうか。						
		「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見 ・農地の基盤整備を行い、排水不良農地から優良農地へ転換することは、農業をするに当たってはたいへん有効ではあるが、現状の農業従事者が高齢化しているので、それに併せて若手の農業従事者の育成施策も必要と考える。						
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	新規就農者に対しては、我孫子市新規就農者補助金交付要綱に基づき、就農後間もない新規就農者に対して土地賃借料や施設設備等の整備費について補助を行います。また認定農業者に対しては、我孫子市認定農業者施設設備整備事業費補助金交付要綱に基づき施設設備整備費について補助を行います。加えて国・県が実施する新規就農者や認定農業者を対象とした補助事業についても周知を行い、安定した農業経営が行えるよう支援を行います。						

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.9 認定農業者の数						
主管課		農政課						
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	平成27年度は1経営体が新規に認定農業者となったが、既存の認定農業者で認定期間の満了を迎える者のうち、高齢化等を理由に認定の更新を希望しない経営体があったため、前年度実績を下回った。						
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	引き続き本市の農業の中心となる認定農業者の確保を進めるため、認定農業者施設整備事業費補助事業による支援を行っていく。						
有識者	③評価	事前	有効であった	0	会議後	有効であった	0	評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの
		どちらとも言えない	3	どちらとも言えない		3		
		有効とは言えなかった	1	有効とは言えなかった		2		
		評価なし	4	評価なし		3		
		提出なし	2	提出なし		2		
		合計	10	合計		10		
有識者	④評価に対する理由及び付帯意見	「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見						
		「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見 <ul style="list-style-type: none"> 達成率が△100%であるが、認定農業者の個人的理由により更新がなされなかったことによるもの。今後とも、地域農業の担い手となる経営体の育成による農業振興や、目標値実現に向け、認定農業者の確保と支援を期待したい。 誰に、どのような農業を展開して欲しいのかのビジョンを明確にした上で、事業を進めてはどうか。 						
		「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見 <ul style="list-style-type: none"> 認定農業者も全体的に高齢化している。若手認定農業者育成施策が必要と考える。 農家自体が、認定農業者なるものをよく理解しないままになっている。 認定農業者になるメリットを含めた周知の徹底。 農家の高齢化、後継者不足のため認定を更新しない現状があるため、農地法の改正も必要かとも考える。現場サイドから国への働きかけも大切なのではないか。 新規就農者の更なる確保。 						
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	若手認定農業者育成のため、その入り口となる新規就農者への支援を継続して実施していきます。また、認定農業者制度自体についても、国等が実施する(認定農業者であることが要件となる)補助事業等の紹介と合わせて市内各農家への周知を行い、今後も継続して当該事業を実施していきます。						

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.10 農産物の加工施設を有する農業者数						
主管課		農政課						
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	6次産業化を促進し、農業所得の向上や地産地消の推進を図るため、市の補助金(農畜産物加工販売施設整備等補助金)による施設整備支援を行ったが、実績は上がらなかった。						
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	引き続き、6次産業化を促進させるため、6次産業化のメリットや補助金の活用をPRし、施設整備を支援していく。						
有識者	③評価	事前	有効であった	0	会議後	有効であった	0	評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの
			どちらとも言えない	2		どちらとも言えない	2	
			有効とは言えなかった	2		有効とは言えなかった	3	
			評価なし	4		評価なし	3	
			提出なし	2		提出なし	2	
			合計	10		合計	10	
有識者	④評価に対する理由及び付帯意見	「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見						
		「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見 ・農業の6次産業化を図ることは、今までのビジネスモデル、生活スタイルを変えることである。特に農家が高齢化している中では抵抗感もあると考えられる。まずはそのメリットを認識してもらうこと、自分たちでも出来ることを認識してもらうことが重要である。そのためには既に6次産業化を行い成功している農家(特に同世代の高齢農家)への訪問ツアーの実施や、立ち上げの際の人的支援(中に入って一緒に6次産業化の立ち上げを行う者の派遣)を検討してはどうか。						
		「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見 ・我孫子市の農業の付加価値を上げていくため、施設整備補助金の積極的な活用と、利用促進に向けた広報を期待したい。 ・6次産業化させるには、多額の施設整備費がかかる。我孫子市の農業者の平均年収が250万円弱という現状で、6次産業化させるにはハードルが高すぎる。市として、推進するのであれば、施設整備費補助金の増額は必要と考える。また、併せて施設整備するまでのきめの細かな指導が必要と考える。						
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	引き続き6次産業化を促進させるため、6次産業化のメリットや事例の紹介と合わせて市の補助金の活用をPRしていきます。また、市の補助金以外にも、国庫事業の6次産業化ネットワーク活動交付金があります。この補助金は、市の補助金の上限額よりも高額で、メニューには6次産業化プランナーによるフォローアップ等人的支援も含まれているため、市の補助金とともに周知していきます。						

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.11 農業拠点施設で販売供給する我孫子産農産物の新開発の加工品数						
主管課		農政課						
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	平成26年度に、市と農家、川村学園女子大学の3者が連携し、市場に出回らないトマトなどを有効活用したジャムを開発したことに引き続き、平成27年度は、国の交付金(農山漁村振興交付金)を活用し、大学教授を中心とするプロジェクトチームやコンサルタントと連携して、加工品開発を進めた。 地元産野菜を使用したトマトとゆずのアイス、ネギと豆乳のアイス、里芋アイスを開発し、イベントで実施した試食アンケート調査では概ね好評を博した。また、川村学園女子大学と連携して料理教室を4回開催し、参加者の意見を農業拠点施設で提供する飲食メニュー開発の参考とした。						
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	引き続き、交付金を活用して、コンサルタントや大学教授らと連携して開発に取り組む。 27年度に開発した3種のアイスの商品化を進めるとともに、新たな商品の開発に取り組む。						
有識者	③評価	事前	有効であった	3	会議後	有効であった	3	評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの
			どちらとも言えない	2		どちらとも言えない	2	
			有効とは言えなかった	0		有効とは言えなかった	0	
			評価なし	3		評価なし	3	
			提出なし	2		提出なし	2	
合計	10	合計	10					
有識者	④評価に対する理由及び付帯意見	「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見 ・達成率は0%であるが、国庫金を活用した新商品の研究や開発を進めている。こうした取り組みにより、我孫子産農産物を活用した新商品の開発が期待される。今後とも目標達成に向けて、積極的な取り組みを期待したい。 ・外部・コンサルタント等との連携でコストはかかるが、その分必ず商品化につながり販路開拓も望める。 ・27年度に地元野菜を用いた3種のアイスの開発ができたことは有効であった。今後は誰に売るか、どこで売るか、いくらで売るか、どのように売っていくか等、マーケティング支援が必要と考える。						
		「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見 ・この、国の交付金(農山漁村振興交付金)を活用しての新開発の加工品については、候補が上がっているという段階のようで、完成までにはまだ時間がかかると考える。引き続き28年度で、商品化に向けた取り組みが待たれる。						
		「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見						
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	ご指摘いただいたとおり、まだ完成には至っておりませんが、引き続き、国の交付金を活用し、コンサルタントや大学教授を中心とするプロジェクトチーム、川村学園女子大学等との連携により加工品開発を進めていきます。開発した加工品は、平成29年春にオープンする農業拠点施設での商品化を目指します。また、オープン後は、農産物直売所で販売する商品や飲食施設で提供するメニューに対する消費者の意見・反応を見聞きしながら、更なる加工品の開発や改良を進めていきます。						

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.12 あびこ型「地産地消」推進協議会会員数						
主管課		農政課						
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	16人が新規に加入したが、高齢化や市外への転居を理由に30人が退会したため、前年度実績を下回った。						
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	引き続き、協議会が実施している援農ボランティアや各種イベント等の活動を継続・発展させ、参加者等に加入を呼びかけていく。						
有識者	③評価	事前	有効であった	1	会議後	有効であった	2	評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの
			どちらとも言えない	4		どちらとも言えない	3	
			有効とは言えなかった	0		有効とは言えなかった	0	
			評価なし	3		評価なし	3	
			提出なし	2		提出なし	2	
			合計	10		合計	10	
			「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見					
「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見 ・達成率が△100%であるが、高齢化、転居等の理由により、会員数が減少したことによるもの。一方、新規加入も見られるところであり、さらなる新規会員の獲得や、会員による地産地消の推進を期待したい。 ・協議会に加入することのメリットを増やす取組を検討してはどうか。 ・協議会の会員も高齢化は避けられないので、目標値を達成させる為に、現役の若手の方を勧誘していくことや、幅広い人材を募集することが必要と考える。								
「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見								
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	新規会員の獲得のため、若い世代を中心に不特定多数の方々に発信できるホームページやSNSを通じたPR、会員による積極的な声掛けを行っていきます。						

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.13 学校給食への地元野菜供給量					
主管課		農政課					
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	市内小中学校19校のうち12校に定期的に供給し、その他5校についても臨時搬送を行った。 その結果、前年度から搬送回数は上回ったものの、供給量は下回った。要因として児童・生徒数の減少が考えられる。					
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	引き続き、学校給食関係者の連携を強化するとともに、現在、児童及び生徒数が多いために対応できていない学校にも供給できるよう、農産物直売所の農産物、出荷農家の確保に努める。					
有識者	③評価	事前 会議後	有効であった	2	有効であった	2	評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの
			どちらとも言えない	3	どちらとも言えない	3	
	有効とは言えなかった		0	有効とは言えなかった	0		
	評価なし		3	評価なし	3		
	提出なし		2	提出なし	2		
	合計		10	合計	10		
	④評価に対する理由及び付帯意見		<p>「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童、生徒数の減少から供給量自体は減少しているものの、搬送回数自体は増加している。農産物直売所の農産物、出荷農家の確保など、供給面での課題解決に努め、学校給食への地元野菜の活用による地産地消の推進を期待したい。 <p>「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> もちろん、地元野菜の供給量を増やしていくことは必要であると思うが、大切なことは、継続的に供給すること。また、食育事業としての機能も付加した活動(例:子供たちの農業体験、農家とのふれあいから、農業と農産物の知識を得ること。)が必要と考える。 児童・生徒数の減少による供給量の減少は今後も予想される。そうした中、供給量を増やすには、供給先を増やすか、1校当たりの供給量を増やすことが考えられる。そのためには、現在定期供給していない学校への供給を開始すること、また献立メニューを検討すること、などに取組まれてはどうか。 <p>「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見</p>				
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	<p>今後も生産農家、農政課、学校教育課、栄養士等の学校給食関係者が連携し、今後も継続して地元野菜を供給していきます。また、生産者から供給した農産物の栽培方法や旬な時期等について説明を行うなど、地産地消や食育の推進に向けて方策を検討していきます。なお、湖北東小学校では食育の推進として、カゴメ株式会社からトマト「凜々子」の苗の提供を受け、地元農家の指導のもと「凜々子」の栽培を行いました。病害虫を乗り越え収穫を達成したことや収穫したトマトを使用しお世話になった人を招いてピザパーティーを催したことなど一連の活動が評価され、全国約150校の応募のなかから「凜々子賞」として3校のうちの1校に選ばれています。</p> <p>地元野菜の供給量を増やしていく方策として、供給先を増やすには、農産物直売所における農産物の確保が必要であり、出荷農家の確保に努めていきます。また、1校当たりの供給量を増やすため、学校給食コーディネーターから栄養士に対して旬な農産物の情報などを積極的に発信していきます。</p>					

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.14 農業拠点施設の年間延べ利用者数													
主管課		農政課													
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	水の館にオープンする農業拠点施設は、平成29年春の開業を目指しているため、27年度までの利用者数は0である。													
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	平成28年度は実施設計をもとに工事を行う。また、引き続きコンサルタントを活用しながら、経営計画の策定や飲食施設のメニュー、加工品開発等を行う。目標値達成のために集客に効果的な方策を練っていく。													
有識者	③評価	事前	<table border="1"> <tr><td>有効であった</td><td>1</td></tr> <tr><td>どちらとも言えない</td><td>4</td></tr> <tr><td>有効とは言えなかった</td><td>0</td></tr> <tr><td>評価なし</td><td>3</td></tr> <tr><td>提出なし</td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>10</td></tr> </table>	有効であった	1	どちらとも言えない	4	有効とは言えなかった	0	評価なし	3	提出なし	2	合計	10
		有効であった	1												
どちらとも言えない	4														
有効とは言えなかった	0														
評価なし	3														
提出なし	2														
合計	10														
会議後	<table border="1"> <tr><td>有効であった</td><td>1</td></tr> <tr><td>どちらとも言えない</td><td>4</td></tr> <tr><td>有効とは言えなかった</td><td>0</td></tr> <tr><td>評価なし</td><td>3</td></tr> <tr><td>提出なし</td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>10</td></tr> </table>	有効であった	1	どちらとも言えない	4	有効とは言えなかった	0	評価なし	3	提出なし	2	合計	10		
有効であった	1														
どちらとも言えない	4														
有効とは言えなかった	0														
評価なし	3														
提出なし	2														
合計	10														
		<p>評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの</p>													
有識者	④評価に対する理由及び付帯意見	<p>「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規事業内容であり期待が持てる～催事スペース確保で海なし我孫子の海産物直売所も外部委託で併設してはどうか。 													
		<p>「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本KPIは、設定指標の性格上、中間評価時点では把握が困難であるため。拠点施設整備により、地産地消の取り組みが進展するとともに、交流人口拡大にも寄与できるよう、事業計画の着実な推進と、基本目標達成に向けた横断的な取り組みの実施を期待したい。 ・29年春に開業を予定している「水の館」が顧客ニーズにフィットしたものとなるよう期待する。 ・29年度農業拠点施設オープンまでの、今年度の目標値達成のため、集客に効果的な方策の万全を期していただきたい。 ・本KPIは評価時点において把握が困難。中間評価では、主管課が想定する事業計画の進捗状況等の確認により、評価していくことが適切と思われる。達成状況一覧表では、「設定指標の性格上、中間評価時点では把握が困難なもの」として集計してはどうか。 													
		<p>「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見</p>													
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	<p>地産地消の取り組みの進展や交流人口の拡大に向けて、農業拠点施設が市内外の多くの方に利用してもらえるよう、市と市内農家、あびこ型「地産地消」推進協議会により構成された「あびこ農力発見プロジェクト」や関係各課が連携して着実に事業を推進していきます。</p> <p>平成28年度は、経営計画の策定や我孫子市農産物を活用した飲食施設のメニューや加工品の開発に取り組んでいるところです。顧客ニーズについては、これまでに実施したアンケート調査や平成28年10月に実施する消費者動向調査の結果などを参考にしながら今後も把握に努め、直売所の販売商品や飲食施設のメニューに反映していきます。</p> <p>今後も目標値達成に向けた効果的な方策を練っていきます。</p>													

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.18 相互連携事業の取り組み数						
主管課		企画課						
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	オリンピック・パラリンピックに向けたボランティア講座の開催について、川村学園女子大学と協議を始めたところである。						
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	29年度のボランティア講座開催に向けた協議を更に進めていく。						
有識者	③評価	事前	有効であった	0	会議後	有効であった	0	評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの
			どちらとも言えない	3		どちらとも言えない	3	
			有効とは言えなかった	0		有効とは言えなかった	1	
			評価なし	5		評価なし	4	
			提出なし	2		提出なし	2	
			合計	10		合計	10	
			④評価に対する理由及び付帯意見	<p>「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <p>「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見 ・大学・企業と連携したまちづくりの推進に向け、新たな取り組みの実現を期待したい。 ・箱根駅伝常連校である中央学院大学とはスポーツの分野で、また栄養士資格取得を目指す学生が在籍する川村学園女子大学とは健康、農政、地域産業活性化の観点からの連携を検討してはどうか。</p> <p>「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見 ・取組内容が見えない</p>				
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	・2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運に合わせ、平成29年度に川村学園女子大学とスポーツボランティアシンポジウムとスポーツボランティア養成講座を開催します。養成講座では、東京オリンピック・パラリンピックだけでなく、市内スポーツイベントなどで活躍するボランティアを養成し、スポーツを通じた地域の活性化へと繋げていきます。 ・これまで実施してきた中央学院大学との相互連携研究会のあり方を今年度中に見直し、双方にとってより意義のある事業を検討していきます。						

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.19 総合型地域スポーツクラブの大学生会員数						
主管課		文化・スポーツ課						
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	大学との連携について具体的な動きをしていない。						
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	会員の若返りを図るため、大学との連携を含めた検討を実施する。						
有識者	③評価	事前	有効であった	0	会議後	有効であった	0	評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの
			どちらとも言えない	3		どちらとも言えない	3	
			有効とは言えなかった	1		有効とは言えなかった	2	
			評価なし	4		評価なし	3	
			提出なし	2		提出なし	2	
			合計	10		合計	10	
			④評価に対する理由及び付帯意見	<p>「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <p>「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・企業と連携したスポーツ教育の振興に向け、新たな連携の実現を期待したい。 ・会員になることの動機づけを大学側と連携して検討してはどうか。 <p>「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生を取込むには、場所、時間帯、種目、年齢層など大学生が興味を持つための工夫が必要であると考え。 ・取組内容が見えない。 				
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	<p>・既存の6クラブは高齢者対象のクラブとなっており、本来の総合型地域スポーツクラブの形態になっていません。また、既存のクラブの考え方も現状のままの活動を望む声が多いことから、新たな総合型地域スポーツクラブの設立を検討する中で、大学・企業との連携を視野に入れていきます。</p>						

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.20 総合型地域スポーツクラブの会員数						
主管課		文化・スポーツ課						
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	各クラブで会員数を増やすようPR活動を実施している。会員数が増加したクラブもあるが、横ばい及び減少しているクラブもあるため、全体では目標を達成できていない。						
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	会員増につながるイベント開催について総合型地域スポーツクラブと協議を行っていく						
有識者	③評価	事前	有効であった	0	会議後	有効であった	0	評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの
			どちらとも言えない	4		どちらとも言えない	3	
			有効とは言えなかった	0		有効とは言えなかった	1	
			評価なし	4		評価なし	4	
			提出なし	2		提出なし	2	
			合計	10		合計	10	
			合計	10		合計	10	
有識者	④評価に対する理由及び付帯意見	「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見						
		「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見 ・地域社会の形成についても大きな役割を果たすことが期待されている「総合型地域スポーツクラブ」の普及、定着に向けた取り組みを期待したい。 ・会員数の増加にはそのスポーツを始めるきっかけづくりが必要である。例えば我孫子市民体育館を定期的に無料開放するなど、まずはそのスポーツを体験出来るような取組をしてはどうか。						
		「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見 ・取組内容が見えない。						
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	<p>・総合型地域スポーツクラブは、活動している小学校内にあるあびっ子クラブにおいて小学生との交流を図るなど、地域社会の形成にも寄与しているものと考えています。</p> <p>・同クラブには、学校体育施設等の利用など安定した活動が継続できるようにしています。また、現在実施しているプログラムに加えて、魅力あるプログラム展開も必要なことから、スポーツ推進委員とも連携して施策を検討していきます。</p>						

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.22 手賀沼沿いの交流空間となる施設の入場者数(手賀沼親水広場・農業拠点施設)						
主管課		手賀沼課・農政課						
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	平成27年7月1日に千葉県から手賀沼親水広場の移譲を受け、来場者の水環境保全意識の啓発を図るため、広場の管理・運営を行った。 なお、広場内の「水の館」は平成28年度に改修工事を予定しており、当該年度は着工までの暫定利用期間として、開館日を週4日としたため、実績値は減少している。また、農業拠点施設のオープンは、水の館リニューアル後となるため実績値には反映されていない。						
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	「手賀沼親水広場等活用計画」に基づき、平成28年度に水の館の改修工事を行う。展示物を一新するとともに、館内に新たに農産物直売所と飲食施設を設け、平成29年4月を予定しているリニューアルオープン後は、水環境保全意識の啓発と交流人口の拡大を目的に施設を運営していく。						
有識者	③評価	事前	有効であった	1	会議後	有効であった	1	評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの
		どちらとも言えない	2	どちらとも言えない		2		
	有効とは言えなかった	1	有効とは言えなかった	1				
	評価なし	4	評価なし	4				
提出なし	2	提出なし	2					
合計	10	合計	10					
有識者	④評価に対する理由及び付帯意見	「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見 ・現在工事中ではあるが新規オープンでは入場者数は上がってくると考える。新規の取組は市民の皆さんにも新鮮さが伝わると考える。						
		「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見 ・本KPIは、設定指標の性格上、中間評価時点では把握が困難であるため。拠点施設整備により、地産地消の取り組みが進展するとともに、交流人口拡大にも寄与できるよう、事業計画の着実な推進と、基本目標達成に向けた横断的な取り組みの実施を期待したい。 ・隣接する柏市、印西市と連携し、手賀沼周辺全体に人が集まる仕掛けを進めるとともに、手賀沼のイメージ向上に関する取組を進めてはどうか。						
		「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見 ・本KPIは評価時点において把握が困難。中間評価では、主管課が想定する事業計画の進捗状況等の確認により、評価していくことが適切と思われる。達成状況一覧表では、「設定指標の性格上、中間評価時点では把握が困難なもの」として集計してはどうか。 ・水の館改修により農産物直売所と飲食施設ができるため、新たな顧客の流入を期待。一方で、旧農産物直売所の活用方法の検討が必要である。また、手賀沼を活用したランニング・サイクリングロードの整備により、スポーツを楽しむ場を提供することで、手賀沼をレジャーの場とすることが可能となる。						
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	当該事業については、複数の委員からご指摘があったとおり、設定指標の性格上、中間評価時点では把握が困難であると考えます。今後も、「手賀沼親水広場等活用計画」に基づき、水環境保全意識の啓発と交流人口の拡大に寄与できる施設とすべく事業計画を着実に進めていきます。また、手賀沼周辺に人が集まる仕掛けを進めるとともに、手賀沼のイメージ向上につなげるために、近隣市との連携を図っていくことについては、企画課が所管する「手賀沼・手賀川活用推進協議会」を中心に検討していきます。 なお、手賀沼をレジャーの場とすることについては、現在、企画課が策定中の「高野山新田地区利用構想」の中においても検討し、庁内及び関係団体等と調整を進めているところです。 旧農産物直売所の活用方法は、直売所を運営している株式会社あびベジや関係各課と協議し検討していきます。						

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.29 小児インフルエンザワクチンの予防接種を行った子どもの割合(予防接種/(対象となる生後6か月～小学6年生の子どもの数×2回接種))													
主管課		健康づくり支援課													
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	インフルエンザワクチンは、任意接種であり、保育園や小学校など集団生活でかからないように接種する家庭が多く、1歳以下は接種してもそれほど大きな効果が得られないことなどから、若干ではあるが接種率が伸びていない。 【接種率】乳幼児：H26①59.5%、②55.8%→H27①56.9%、②55.1% 小学生：H26①49.7%、②44.6%→H27①47.9%、②42.6%													
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	引き続き、インフルエンザ予防接種を受けた児の保護者に対し、予防接種費用の一部を助成することにより、保護者の経済的負担を軽減するとともに、流行時の発病予防・重症化予防、及び集団感染の予防を図っていく。													
有識者	③評価	事前	<table border="1"> <tr><td>有効であった</td><td>1</td></tr> <tr><td>どちらとも言えない</td><td>2</td></tr> <tr><td>有効とは言えなかった</td><td>0</td></tr> <tr><td>評価なし</td><td>5</td></tr> <tr><td>提出なし</td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>10</td></tr> </table>	有効であった	1	どちらとも言えない	2	有効とは言えなかった	0	評価なし	5	提出なし	2	合計	10
		有効であった	1												
	どちらとも言えない	2													
	有効とは言えなかった	0													
評価なし	5														
提出なし	2														
合計	10														
会議後	<table border="1"> <tr><td>有効であった</td><td>2</td></tr> <tr><td>どちらとも言えない</td><td>2</td></tr> <tr><td>有効とは言えなかった</td><td>0</td></tr> <tr><td>評価なし</td><td>4</td></tr> <tr><td>提出なし</td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>10</td></tr> </table>	有効であった	2	どちらとも言えない	2	有効とは言えなかった	0	評価なし	4	提出なし	2	合計	10		
有効であった	2														
どちらとも言えない	2														
有効とは言えなかった	0														
評価なし	4														
提出なし	2														
合計	10														
		評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの													
④評価に対する理由及び付帯意見		<p>「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザへの罹患、重篤化の予防に向けて、予防接種の一部助成制度の積極的な活用が図られるよう、今後とも利用状況を分析し、必要な改善策を検討されたい。 ・件数の低下だけで評価は出来ないが必要な事。 <p>「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接種率の増加には保育園や学校との連携が必要だと考える。インフルエンザのみでなく予防接種そのものへの保護者の関心を年間を通じてどう高めていくか具体的な方法を行動計画に入れる必要がある。 <p>「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見</p>													
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	<p>市独自事業として平成26年10月から事業開始した小児インフルエンザ予防接種費用助成については、平成27年度の接種率は対象児童の50%にとどまっているものの、国民健康保険被保険者に限りませんが、中学生以下の子ども一人当たりの罹患率は低下しており、一定の効果があったと考えられます。</p> <p>インフルエンザワクチンが、3価から4価に切り替わり、全国的に予防接種の費用が値上がりしたため、平成26年度と同程度の負担で接種できるよう、市からの助成額を2,000円から3,000円に増額し、受けやすい体制を整えました。予防接種法に位置付けされていない任意予防接種であるため、市が助成制度を実施することで、保護者の経済的負担を軽減することができます。また、適切な時期にインフルエンザ予防接種を受けられることで、疾病への罹患や重症化を防ぐことができます。</p> <p>小児インフルエンザも含め、保育園や学校からチラシ等を配布し、保護者への啓発を行っています。今後も啓発活動を継続し、接種を勧めていきます。</p>													

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.38 病児・病後児保育の年間延べ利用人数													
主管課		保育課													
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	平和台病院での病後児保育は、H26が21人、H27が62人と増加している。理由としては、H27.12月から受入児童への対応を柔軟にしたことが挙げられる。名戸ヶ谷病院での病児・病後児保育は、H26が319人、H27が142人と減少している。理由としては、保育士が1名募集を続けていたが、採用できなかったことにより、受入人数が半減したためである。													
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	病後児保育施設で病後児の受入れ体制を柔軟にしたこと、病児保育施設で保育士の確保ができたことにより利用者の増加が見込まれる。 引き続き、事業関係者と共通理解を図りながら事業を実施していく。 H25年度からファミリーサポートセンター事業において行っている病児・病後児の送迎活動とも連携しながら実施していく。													
有識者	③評価	事前	<table border="1"> <tr><td>有効であった</td><td>1</td></tr> <tr><td>どちらとも言えない</td><td>2</td></tr> <tr><td>有効とは言えなかった</td><td>1</td></tr> <tr><td>評価なし</td><td>4</td></tr> <tr><td>提出なし</td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>10</td></tr> </table>	有効であった	1	どちらとも言えない	2	有効とは言えなかった	1	評価なし	4	提出なし	2	合計	10
		有効であった	1												
	どちらとも言えない	2													
	有効とは言えなかった	1													
評価なし	4														
提出なし	2														
合計	10														
会議後	<table border="1"> <tr><td>有効であった</td><td>1</td></tr> <tr><td>どちらとも言えない</td><td>2</td></tr> <tr><td>有効とは言えなかった</td><td>2</td></tr> <tr><td>評価なし</td><td>3</td></tr> <tr><td>提出なし</td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>10</td></tr> </table>	有効であった	1	どちらとも言えない	2	有効とは言えなかった	2	評価なし	3	提出なし	2	合計	10		
有効であった	1														
どちらとも言えない	2														
有効とは言えなかった	2														
評価なし	3														
提出なし	2														
合計	10														
		評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの													
④評価に対する理由及び付帯意見		<p>「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 各受入れ施設の状況により利用人数の増減が見られるが、仕事と子育ての両立を実現していくため、今後とも利用状況を分析し、必要な改善策を検討されたい。 <p>「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 既にある病児・病後児保育の受入施設が上手く機能するよう、そこで働く保育士確保策を検討してはどうか。 引き続き保育士確保と事業者との連携を深めていただきたい。 長期的な見通し、保護者および子どもなど利用者サイドから考えて訪問型の病児・病後児保育の体制整備の検討も期待する。 <p>「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育士不足で受け入れ対応が出来なかった～本当に市が採用をバックアップしているのか疑問。 病院側の受け入れ体制は整備されているが、多くの利用客のある我孫子駅前に当該施設がなく、拠点の増設が必要な状況にある。さらに、保育士確保に向け、資格を持ちながら家庭にいる主婦層を再活用していくためのPRが必要。 													
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	<ul style="list-style-type: none"> 保育士不足による受け入れ体制が整備できない場合は、病院と連携し、市のホームページや広報等で保育士の採用をバックアップしていきます。また、毎月報告いただいている利用状況報告書を確認し、体制が整っているにも関わらず病児・病後児の受け入れができない状況があった場合は、受け入れできなかった理由を詳細に把握し、早期に対応策を検討します。 訪問型の病児・病後児保育については、ファミリーサポートセンター事業のサービスの一つとして「病児・病後児の預かり」を実施しています。 病児・病後児保育を利用される際に、医師が病状を確認して利用の有無を決定しています。中には、その場で入院と判断されるケースもあります。病院には乳幼児の病状を慎重に把握していただき、可能な限り仕事と子育ての支援ができるよう病院と連携していきます。 													

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.40 子どもの発達に関する相談予約から初回面接までの日数																									
主管課		子ども相談課(こども発達センター)																									
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	早期支援は、通常ケースワーカー(CW)と心理相談員で実施している。しかし、CWが1人しかいないため、代わりに理学療法士や心理相談員が入って実施するように工夫した。しかし、保護者の希望日時と訓練実施部屋の空き状況がうまく調整できず、想定していた日数の短縮にはつながらなかった。しかし、H26には、長いと2ヶ月近く待っているケースもあったため、それから比べると若干ではあるが短縮できている。																									
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	平成28年3月のこども発達センターの増築により、相談室、訓練室が増え、CW1人が正規職員となったことで、相談予約から30日以内で、初回面接が実施できる体制ができる。 相談者が増加しても、相談予約から30日以内の初回面接を継続していく。																									
有識者	③評価	事前	<table border="1"> <tr><td>有効であった</td><td>2</td><td>有効であった</td><td>3</td></tr> <tr><td>どちらとも言えない</td><td>2</td><td>どちらとも言えない</td><td>2</td></tr> <tr><td>有効とは言えなかった</td><td>0</td><td>有効とは言えなかった</td><td>0</td></tr> <tr><td>評価なし</td><td>4</td><td>評価なし</td><td>3</td></tr> <tr><td>提出なし</td><td>2</td><td>提出なし</td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>10</td><td>合計</td><td>10</td></tr> </table>	有効であった	2	有効であった	3	どちらとも言えない	2	どちらとも言えない	2	有効とは言えなかった	0	有効とは言えなかった	0	評価なし	4	評価なし	3	提出なし	2	提出なし	2	合計	10	合計	10
		有効であった	2	有効であった	3																						
		どちらとも言えない	2	どちらとも言えない	2																						
		有効とは言えなかった	0	有効とは言えなかった	0																						
		評価なし	4	評価なし	3																						
提出なし	2	提出なし	2																								
合計	10	合計	10																								
会議後	<table border="1"> <tr><td>有効であった</td><td>3</td></tr> <tr><td>どちらとも言えない</td><td>2</td></tr> <tr><td>有効とは言えなかった</td><td>0</td></tr> <tr><td>評価なし</td><td>3</td></tr> <tr><td>提出なし</td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>10</td></tr> </table>	有効であった	3	どちらとも言えない	2	有効とは言えなかった	0	評価なし	3	提出なし	2	合計	10														
有効であった	3																										
どちらとも言えない	2																										
有効とは言えなかった	0																										
評価なし	3																										
提出なし	2																										
合計	10																										
評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの																											
提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの																											
合計																											
有識者	④評価に対する理由及び付帯意見	「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見 ・達成率が△35%であるが、日数短縮に向けた改善策に取り組まれている。センター増築など体制整備のさらなる効果を期待したい。 ・早期の保育士の採用を期待したい。 ・相談件数が増加傾向にあるのであれば、CWを増員する必要がある。																									
		「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見 ・相談者の希望に応じた、タイムリーな面接対応が可能な体制確保に努めるべきである。																									
		「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見																									
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	平成28年3月の増築により、相談室が1部屋、訓練室が4部屋増えたほか、発達評価や集団療育を優先的に行える部屋が整備されました。増築後は、通園(ひまわり園)のほかに、集団療育を充実させることで早期療育につなげる体制をとっていきます。 保護者からの相談は随時対応していますが、子どものサービス利用等の処遇決定に関わる初回面接(インテーク)については、相談者が増えても、相談予約から30日以内に初回面接を継続できる体制を維持していきます。今後、相談件数の増加により、30日以内での対応が困難な場合にCWの増員を検討していきます。 なお、集団療育は、子どもの観察を行う「あそびの教室」のほか、「集団療育グループ」、「集団訓練(SST)」など複数作り、対象の拡大と充実を図るとともに、子どもの状況や人数等に応じて人員を確保していきます。																									

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.41 児童・生徒に対する個別の指導計画の作成率																									
主管課		教育研究所																									
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	我孫子市においては、特別支援学級が増加している(支援級H26:49クラス265人→H27:57クラス311人)のに加え、通常学級において支援計画を作成したほうが良いと思われる児童数も増加している。(H26:314人→H27:351人)支援計画を作成した児童はH26:307人からH27:327人と増加はしているが、対象児童が増えたこと、親からの作成承諾が得られなかったことから、作成率が伸びなかった。(特別支援学級在籍児童は、全員指導計画を作成している。)																									
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	特別支援教育推進の観点から、指導計画作成とそれに基づいた指導は不可欠である。今後も保護者の理解と了承を求めて説明を重ねながら、計画作成と指導に努めていく。																									
有識者	③評価	事前	<table border="1"> <tr> <td>有効であった</td> <td>1</td> <td>有効であった</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>どちらとも言えない</td> <td>2</td> <td>どちらとも言えない</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>有効とは言えなかった</td> <td>0</td> <td>有効とは言えなかった</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>評価なし</td> <td>5</td> <td>評価なし</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>提出なし</td> <td>2</td> <td>提出なし</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>10</td> <td>合計</td> <td>10</td> </tr> </table>	有効であった	1	有効であった	1	どちらとも言えない	2	どちらとも言えない	2	有効とは言えなかった	0	有効とは言えなかった	1	評価なし	5	評価なし	4	提出なし	2	提出なし	2	合計	10	合計	10
		有効であった	1	有効であった	1																						
	どちらとも言えない	2	どちらとも言えない	2																							
	有効とは言えなかった	0	有効とは言えなかった	1																							
評価なし	5	評価なし	4																								
提出なし	2	提出なし	2																								
合計	10	合計	10																								
事後	<p>評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの</p>																										
④評価に対する理由及び付帯意見	「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見		・要支援者への効果的な支援に向け、継続的な取り組みを期待したい。																								
	「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見		・引き続き、指導計画の作成について保護者の理解が得られるよう、丁寧な説明をしていくべきである。																								
	「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見		・保護者への理解が進めば、KPI達成率は上がる～今年度以降に期待する。																								
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	<p>市内小中学校では、個別の指導計画作成の有無にかかわらず、特別に支援を要する児童生徒に対しては、きめ細かい指導を行っています。また、増加する対象児童生徒に対応するために、学級支援員の配置増員や教員のスキルアップを目指した特別支援教育研修会の充実を目指して取り組んでいます。</p> <p>なお、自分の子どもが個別の指導計画を作成されるということへの不安感がある保護者もいることから、時間をかけて丁寧に説明し、計画作成への協力を求めています。</p>																									

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.50 高齢者在宅生活支援事業等利用者数(介護保険外在宅サービス、寝具乾燥、消毒サービス、徘徊探知システム、日常生活用具給付ほか)						
主管課		高齢者支援課						
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	介護保険サービスの利用が増えたことにより、市が独自で行っている支援事業の利用者が減った。特に軽度生活援助、配食サービス、高齢者移送サービスが10人前後、利用減少している。						
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	事業ごとにサービスの見直しを行ったうえでサービスを継続していく。						
有識者	③評価	事前	有効であった	3	会議後	有効であった	3	評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの
			どちらとも言えない	2		どちらとも言えない	2	
			有効とは言えなかった	0		有効とは言えなかった	0	
			評価なし	3		評価なし	3	
			提出なし	2		提出なし	2	
合計	10	合計	10					
有識者	④評価に対する理由及び付帯意見	「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見 ・利用者数が微減傾向であるが、今後とも利用状況を分析し、必要な改善策を検討されたい。 ・サービスを見直し、継続する事は重要な事、どのようにサービス内容を変えるのか具体的に決まっているなら説明してほしい(例配食サービス⇒民間活用に変更する等)※現在外部委託ならば説明不要。 ・2000年に介護保険が導入され、今まで市単独事業で行ってきたサービスを見直すことは、とても重要であると思う。導入当初と現在では、利用者ニーズも変化してきていると思う。						
		「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見 ・高齢者支援については様々な制度、メニューが存在する。高齢者ニーズの観点からモレ、ダブりの無いよう、必要に応じてサービスメニューの見直しも検討すべきである。 ・No.51と合わせて評価する必要がある。相談にどれくらい対応できるか、というのがこの事業になる。						
		「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見						
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	配食サービスは、利用する高齢者の安否確認も目的の一つとして、委託事業で実施しています。また、家の周りの生活動線上の除草を行なう軽度生活援助サービスは、平成28年度から所得制限を導入し利用対象者の見直しを行ないました。今後、後期高齢者の増加に伴い、サービスを必要とする高齢者も増え、ニーズも多様化していくと考えられますので、高齢者なんでも相談室と連携しながらニーズに合ったサービスとなるよう適時見直しを行いながら事業を実施していきます。						

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.51 高齢者なんでも相談室への件数						
主管課		高齢者支援課						
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	各地区でみると、布佐・新木地区で835件と大幅増しているが、湖北・湖北台地区▲241、我孫子地区▲75、天王台地区▲55と他地区で減少しているため、目標値を達成できていない。大幅に増加している布佐・新木地区での相談内容は、健康や市の福祉サービス、日常での困りごとなどが多かった。						
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	今後高齢者の増加に伴い相談件数の増加が見込まれるため、職員の増員や新たな相談室の開設を行っていく。						
有識者	③評価	事前	有効であった	3	会議後	有効であった	3	評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの
			どちらとも言えない	1		どちらとも言えない	1	
			有効とは言えなかった	0		有効とは言えなかった	0	
			評価なし	4		評価なし	4	
			提出なし	2		提出なし	2	
合計	10	合計	10					
有識者	④評価に対する理由及び付帯意見	<p>「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区の状況により相談件数の増減が見られ、全体として達成率は低調である。今後とも利用状況を分析し、必要な改善策を検討されたい。 ・地区によって増減があり説明では、布佐、新木地区は相談内容が健康・市の福祉サービス・日常での困りごとが多いとあり、逆に湖北・湖北台地区、我孫子地区・天王台地区はその相談内容が少なくと捉えて良いのか(不満が少ないという事)。 ・高齢化の進展に伴い、今後もさらなる相談件数の増加が予想される。そのため増加する相談件数、内容・分野に対応できる体制整備が必要である。 						
		<p>「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の通り、高齢者の方が不自由に考えておられることは多岐にわたり、地域性にもよると思われる。いかにニーズを把握して柔軟な体制を整えられるかに因る。また、相談数が増えることを指標としているが、その相談の先に介護保険サービスの利用に繋がったり、事業No. 50の具体的なサービスにつながる事が重要である。 						
		<p>「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見</p>						
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	<p>地区ごとの相談件数は、人口構造により差はあるものの、どこの地区でも様々な相談があります。相談後の支援については、ニーズに応じて介護保険や市のサービスに繋ぐことで解決を図る対応を現在でも行なっています。</p> <p>今後、後期高齢者の増加に伴い、相談件数も増加し、内容も多様化していくことが考えられるため、職員の増加や新たな高齢者なんでも相談室の設置も含め、機能強化について検討していきます。</p>						

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.53 協定救急病院の救急搬送率						
主管課		健康づくり支援課						
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	市民が、病状に応じた医療機関に迅速に搬送されるよう、市内救急6病院とJAとりで総合医療センター(小児救急)の合計7病院と協定を結び、受け入れ態勢を整備した。救急搬送者数は年々着実に増え続けている。平成26年度は5327件、平成27年度は5350件だった。病院の病床数は変わらない為、協定病院への搬送率は下降している。						
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	引き続き、事業を実施していくとともに、身近な医療から高度な医療まで、広域的な連携も含めて、救急医療体制を構築していく。協定病院への搬送率を向上させるには病床数の確保が必須であり、病院が増床計画を県に提出する時には、強く後押しする意見書を市から提出する。						
有識者	③評価	事前	有効であった	0	会議後	有効であった	2	評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの
			どちらとも言えない	3		どちらとも言えない	3	
			有効とは言えなかった	0		有効とは言えなかった	0	
			評価なし	5		評価なし	3	
			提出なし	2		提出なし	2	
合計	10	合計	10					
有識者	④評価に対する理由及び付帯意見	「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見						
		<ul style="list-style-type: none"> ・KPIは未達であるが、安心安全な生活環境を確保していく上で、必要な取り組みであるため、救急搬送数は今後とも増加が予想され、誰もが安心できる生活環境の提供を実現するため、協定病院に対する増床の働きかけを継続的に実施して欲しい。 ・KPIの評価の仕方で少ない方がいいのかもしれないが、準備対応することが評価される。 						
		「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見						
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進展に伴い、今後も救急患者の増加が予想される。協定救急病院への搬送率向上には、救急車を必要な人が、必要な時に利用できるよう救急車の適正利用に関する啓発を行うことも1つ方策ではないか。 ・引き続き協定病院の増床強化に取り組んでいただきたい。 ・進捗状況を確認する指標として、「犯罪発生率」の様に減少することが望ましい指標、「組織率」の様に増加することが望ましい指標、「充足率」の様に、ニーズをカバーした率となる指標、どのようなものとして見たらよいのか。 						
		「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見						
		<p>限りある医療資源を適正に利用できるようにするために、本来は重症患者を受入対象とする救急外来を個人的理由により夜間や休日に受診する行為を抑制すること、救急車を適正に利用することを啓発していきます。救急車の適正利用については消防本部と連携して啓発していきます。また、各病院とは引き続き協定を締結し、救急医療体制を整備します。協定救急病院の救急搬送率は、救急搬送のニーズを協定締結病院でカバーする割合となり、増加することが望ましい指標と考えます。</p>						

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.57 成田線直通電車の東京駅・品川駅への乗り入れ本数																									
主管課		企画課																									
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	沿線自治体で構成する、「成田線活性化推進協議会」や、千葉県を中心とした「千葉県JR線複線化等促進期成同盟」とともに、JR東日本に対し要望活動を行った。 実績値のとおり朝・夕の通勤・通学時間帯において、東京駅・品川駅へ成田線直通電車が2本乗り入れている一方、成田線の増便自体は、実現はされていない。																									
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	引き続き、乗り入れ本数の増に向け、沿線自治体と連携し要望活動を行うほか、成田線利用者による直通電車の利用増に向けてPRを行っていく。 また、要望を粘り強く続け、成田線直通電車の東京駅・品川駅への乗り入れ本数を増加させることにより、長年の悲願となっている成田線の増発につなげていく。																									
有識者	③評価	事前	<table border="1"> <tr> <td>有効であった</td> <td>0</td> <td>有効であった</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>どちらとも言えない</td> <td>3</td> <td>どちらとも言えない</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>有効とは言えなかった</td> <td>1</td> <td>有効とは言えなかった</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>評価なし</td> <td>4</td> <td>評価なし</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>提出なし</td> <td>2</td> <td>提出なし</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>10</td> <td>合計</td> <td>10</td> </tr> </table>	有効であった	0	有効であった	0	どちらとも言えない	3	どちらとも言えない	3	有効とは言えなかった	1	有効とは言えなかった	2	評価なし	4	評価なし	3	提出なし	2	提出なし	2	合計	10	合計	10
		有効であった	0	有効であった	0																						
		どちらとも言えない	3	どちらとも言えない	3																						
		有効とは言えなかった	1	有効とは言えなかった	2																						
		評価なし	4	評価なし	3																						
提出なし	2	提出なし	2																								
合計	10	合計	10																								
会議後	<table border="1"> <tr> <td>有効であった</td> <td>0</td> <td>有効であった</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>どちらとも言えない</td> <td>3</td> <td>どちらとも言えない</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>有効とは言えなかった</td> <td>1</td> <td>有効とは言えなかった</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>評価なし</td> <td>4</td> <td>評価なし</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>提出なし</td> <td>2</td> <td>提出なし</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>10</td> <td>合計</td> <td>10</td> </tr> </table>	有効であった	0	有効であった	0	どちらとも言えない	3	どちらとも言えない	3	有効とは言えなかった	1	有効とは言えなかった	2	評価なし	4	評価なし	3	提出なし	2	提出なし	2	合計	10	合計	10		
有効であった	0	有効であった	0																								
どちらとも言えない	3	どちらとも言えない	3																								
有効とは言えなかった	1	有効とは言えなかった	2																								
評価なし	4	評価なし	3																								
提出なし	2	提出なし	2																								
合計	10	合計	10																								
「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見		評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの																									
「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見		提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの																									
④評価に対する理由及び付帯意見		<p>「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期的な評価が困難と思われる。交通便利性の向上に向け、長期的かつ継続的な取り組みが必要と思われる。目標値の達成に向けて、関係機関等へのPRに努めてほしい。 ・今後も他自治体と連携し要望活動を強めていただきたい。 <p>「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本評価指標については、東京・品川への乗り入れ本数よりも、成田線の運転本数を1時間に2本から3・4本の増便することを提案してはどうか。本数増加により近隣住民の利便性向上と、新住民の増加効果が見込まれる。 ・品川乗り入れが増えると、上野ラインに関係する遅延、運休が増える為効果が薄い。 																									
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	<ul style="list-style-type: none"> ・成田線沿線の魅力を情報発信するなど、成田線のPRに努めるとともに、引き続き沿線自治体と連携して粘り強く要望活動に取り組んでいきます。 ・要望活動では、東京駅・品川駅への乗り入れ本数の拡大だけでなく、成田線の増発も強く要望しています。交通便利性の向上は定住化策においても重要な役割を担うことから、引き続き取り組んでいきます。 ・JR東日本が公開している駅別乗車人員において、平成27年の成田線の利用者数は前年度に比べ増加しています。この要因の詳細な分析はできていませんが、上野東京ラインへの成田線の直通運転が一因とも考えられるため、引き続き乗り入れ本数の拡大に向け取り組んでいきたいと考えています。 																									

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.58 公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画の策定数(累計)						
主管課		企画課						
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	個別施設計画は所管部局で策定するが、更新時期が具体化した場合や施設の再編に関わる検討の必要性が生じた場合など適切な時期に計画することとしており、平成27年度は該当する計画がなかった。						
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	公共施設にかかる個別施設計画の策定の支援として、規模の適正化や他施設との複合化などの検討のための施設カルテの提供を行っていく。						
有識者	③評価	事前	有効であった	0	会議後	有効であった	0	評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの
			どちらとも言えない	2		どちらとも言えない	3	
		有効とは言えなかった	0	有効とは言えなかった	1			
		評価なし	6	評価なし	4			
提出なし	2	提出なし	2					
合計	10	合計	10					
有識者	④評価に対する理由及び付帯意見	「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見						
		「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見 ・平成27年度は該当する計画がなかったため。効率的な行政運営を実現するため、計画策定に向けた情報提供や計画策定支援等を継続的に取り組んでいくことを期待したい。						
		「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見 ・実施施設が増えることを目的としているのではなく、その対応に準備する目的ととらえた。						
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	<p>「公共施設等総合管理計画」は、市の所有施設等の現状を把握し、施設全体の管理に関する基本的な方針を記載することを目的に総務省から策定要請を受けたものです。この基本方針を踏まえ、今後は「個別施設計画」の策定に移行しますが、その中で集約化・複合化等が着実に進められることが必要であることも「骨太の方針2016」の中で位置づけられているものです。</p> <p>「個別施設計画」は、施設を管理し、市民ニーズや老朽化の状況などを把握している各施設の所管課が策定する必要があるため、企画課はその策定に向けた支援を継続的に取り組んでいくことで進行管理の役割を担います。</p>						

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.60 市民活動ステーションの利用件数						
主管課		市民活動支援課						
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	平成27年度より印刷機の有料化を行ったため、全体的な利用件数は減少したが、会議室などの利用数は増加している。 (印刷機利用件数)H26:2,304件→H27:1,563件 (印刷機以外の利用件数)H26:3,106件→H27:3,330件						
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	今後も使用備品等の充実を図り、施設のPRを実施する必要がある。 ただし、印刷機の有料化に伴い無料時と同様の利用件数を満たすのは難しいと考える。						
有識者	③評価	事前	有効であった	0	会議後	有効であった	0	評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの
		どちらとも言えない	4	どちらとも言えない		4		
	有効とは言えなかった	1	有効とは言えなかった	1				
	評価なし	3	評価なし	3				
		提出なし	2		提出なし	2		
		合計	10		合計	10		
	④評価に対する理由及び付帯意見	<p>「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <p>「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 達成率は減少しているが、印刷機の有料化(受益者負担の導入)が主な要因となっている。地域コミュニティの活性化に向け、市民活動の促進に必要な支援を実施していくことを期待したい。 利用者アンケートを実施し、その結果を踏まえて利用要件の緩和を図るなど、常に利用者視点に立った施設運営が必要である。 備品等の考え方も含め今後も利用しやすい施設づくりが必要である。 <p>「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来的に駅前の活用は高齢化社会においても有効であるが、しかし図書館などが別な場所にあり不便～将来的には総合的な施設の検討も必要(30年後を見据えて)コストがかかりますが分散型にする施設と統合する施設の総合的な考えも必要である。 						
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	<ul style="list-style-type: none"> 今後は、指定管理者とも協議の上、利用者アンケートやご意見箱の設置等により利用者の目線に立った施設となるよう、事業を進めていきます。 また、アンケートでは施設の利用面だけでなく、より団体が必要としているソフト事業を調査し、事業を実施します。 総合的な施設の考え方については、公共施設等総合管理計画の基本的な方針に沿って今後策定する個別施設計画の中で整理していきます。 						

外部有識者からの事業評価・付帯意見を踏まえた「遅延」事業の今後について

重要業績評価指標(KPI)		No.61 自治会の加入率(加入世帯/市内全世帯)						
主管課		市民活動支援課						
主管課	①事業評価 (実施状況・事後評価)	転入者に対し、自治会への加入促進パンフレットを配布した。また、市HPにて自治会の活動自慢を掲載し、自治会活動のPRを行った。 しかし、市民に自治会が実施していることや必要性等が十分に伝わっておらず、加入率は低下したと思われる。						
	②事業の今後について (改善策・展開方法)	引き続き、自治会加入促進パンフレットの配布を続ける。 また、自治会活動がより一層理解されるようPRを続ける必要がある。						
有識者	③評価	事前	有効であった	0	会議後	有効であった	0	評価なし・「評価・検証」の提出はあったが評価が未記入であったもの 提出なし・「評価・検証」の提出がなかったもの
		どちらとも言えない	4	どちらとも言えない		4		
	有効とは言えなかった	1	有効とは言えなかった	1				
	評価なし	3	評価なし	3				
	提出なし	2	提出なし	2				
合計	10	合計	10					
④評価に対する理由及び付帯意見	「有効であった」の評価に対する理由及び付帯意見							
	「どちらとも言えない」の評価に対する理由及び付帯意見 ・達成率は減少しているが、自治会活動のPR等に取り組まれている。今後とも、地域コミュニティの活性化に向け、加入率の向上に向けた取り組みを期待したい。 ・自治会加入率の低い地域、年代等を調査し、未加入世帯がメリットを感じられるような取組を検討してはどうか。 ・転入者の対応と同様に、アパート等の集合住宅の方の加入を高める工夫やしくみ作りが必要である。							
	「有効とは言えなかった」の評価に対する理由及び付帯意見							
主管課	⑤有識者会議委員による評価に対する理由及び付帯意見を踏まえた事業の今後について(改善策・展開方法)	<ul style="list-style-type: none"> 自治会加入促進の取組として、平成27年度に市内の全小中学校の児童・生徒へ自治会加入PRリーフレットを配布し、子育て世代への周知を行いました。今後も引き続きPRを行っていきます。 自治会加入率の減少の要因は、地域とのつながりを持つ必要性を感じていないことが一つに上げられると考えられるため、地域の繋がりの重要性を転入者や集合住宅の住民に、引き続きPRを行います。また、大学生を対象に自治会についての意識調査等を実施し、地域とのつながりをどのように考えているか調査していきます。 自治会加入の低い世代、地域に対してどのような事業が有効か研究していきます。 マンション等は独自の管理組合を形成している場合もあります。しかし、アパート等賃借物件は自治会によって対応が異なるため、各自治会の動向を把握した上で市としても対応を検討していきます。 						